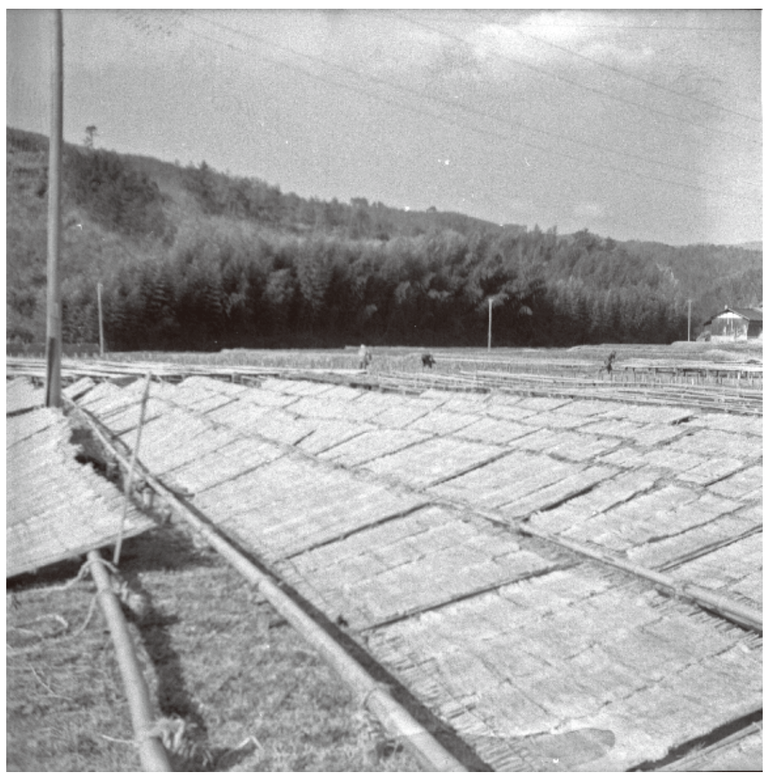
姿を消した産業と特産品



◀昭和 32（1957）年 2 月　一の鳥居付近（長尾町？）

川西市北部の山間地では冬季の寒さを利用して寒天づくりが行われていました。川西市史では遅くとも幕末期には始まったとされています。写真にあるように、製造された寒天は冬の晴れた日に屋外で干されていました。同年に川西市が発行した『市勢要覧』には、東畦野の福井寒天製造所の広告が掲載されています。同製造所は営業を停止したのちもレンガ造りの建物が残っていましたが、残念ながら今年（R6、2024）に解体されました。

営業種目・輸出寒天製造

福井寒天製造場

代表　福井貞蔵

川西市東畦野

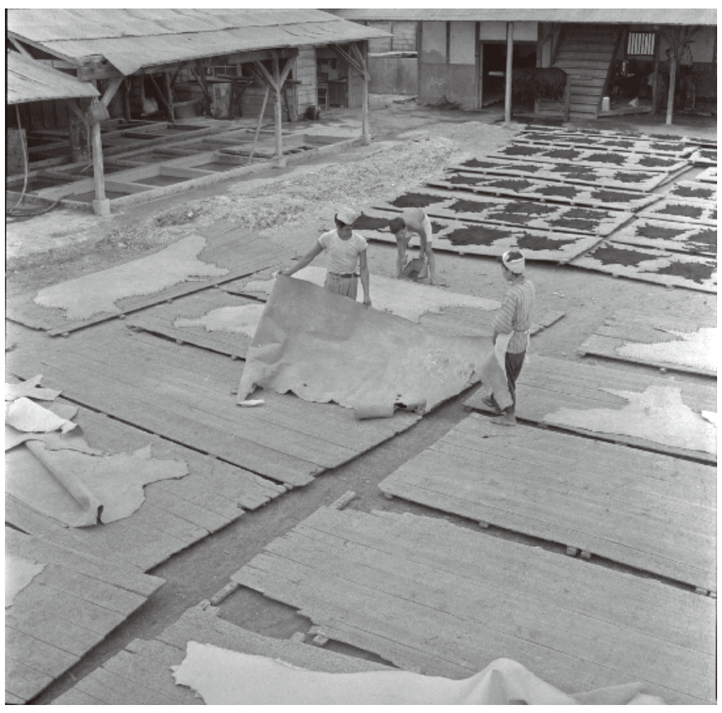
電話山下18番

撮影時期・場所不明▶

川西市では大都市近郊の地の利を活かして果樹生産が盛んです。主な産物は現在では桃と栗、イチジクであすが、昭和 40 年代まではブドウも盛んに栽培されていました。主な生産地は久代や加茂地区でした。近年、ブドウの名産地復活を目指して、新たにブドウを栽培する動きがあります。

◀昭和 35（1960）年　火打 1

現在のキセラ川西のエリアには、かつて皮革製造工場群が軒を並べていました。工場では他地域から供給を受けた原皮をなめしで出荷していました。昭和 44（1969）年には事業所は 85 を数え、従業員は 694 人と、川西市の主要産業のひとつでした。その後、周辺の都市化が進み操業環境が変化したため、平成 17（2005）年までにすべての事業所が移転もしくは廃業となり、跡地に商業施設や公園、マンションなどが整備されました。



姿を消した産業と特産品

▲昭和 32（1957）年 2 月　国崎

川西市の最北部の集落、国崎や一庫、黒川などでは里山のクヌギを利用した炭焼きが盛んで、「一庫炭」「池田炭」として市場に出荷され大きな利益を生みました。しかし、昭和 30 年代以降の燃料革命（ガスや電気の普及）により製炭業は衰退し、炭焼き業者は現在では黒川に 1 軒を残すのみです。国崎集落は一庫ダムの建設（S57 完成）によりダム湖（知明湖）の湖底に沈みました。

▲撮影時期不明　久代・川西 SP センター

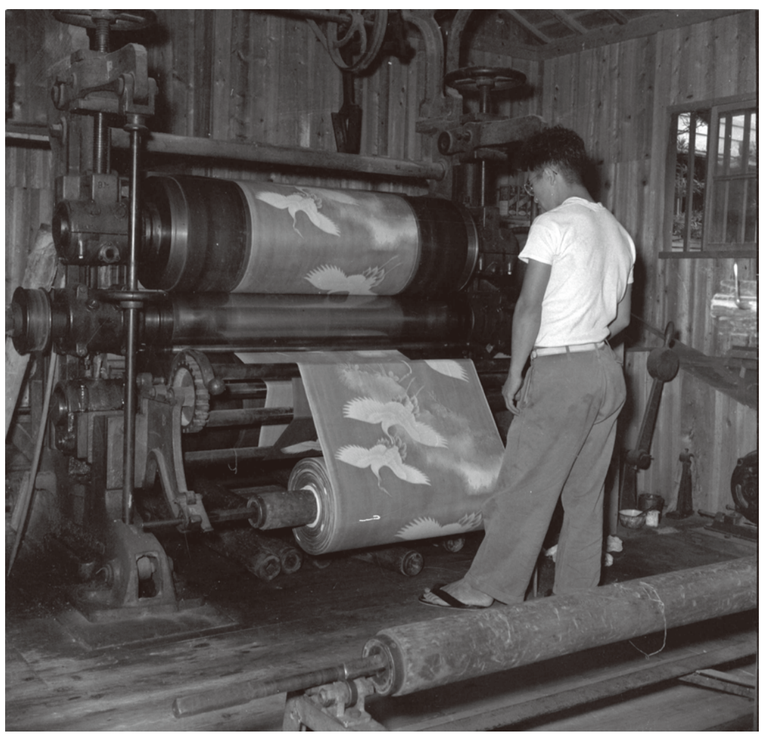
昭和 38（1963）年 6 月、久代の県道沿いにショッピングセンター・川西 SP センターが開業しました。それまで市場やスーパーは川西能勢口駅周辺にしかなかったので、初めての郊外型のショッピングセンターでした。

昭和 40（1965）年　川西中央商店街（小花 1）▶

川西能勢口駅の東口から国道 176 号にかけて商店街が伸びていました。今ではスーパーやショッピングモールに押され、商店街が消えてしまいました。

▲昭和 35（1960）年 2 月　新田？

多田地区に清酒「養老一」を作る酒蔵がありました。現在では酒蔵もブランドも残っておらず、覚えている人も少なくなりました。写真は 2 月にお酒を仕込んでいる様子です、



▲昭和 35（1960）年　小戸付近

大正時代から、猪名川の清流を利用して友禅染業が営まれました。布地を染色した後の洗浄作業が猪名川で行われ、川面に色鮮やかな布地が広がる風景は川西の名物でしたが、都市化の影響で昭和 40 年代末ごろに姿を消しました。